

【鈴鹿市総合計画2031の基本構想(素案)に係る意見公募手続の結果一覧】

■募集期間 令和5年7月21日(金)から令和5年8月21日(月)まで
 ■提出者 20人
 ■意見数 114件

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
1	全般	総合計画2023の策定中にも要望したのですが基本構想だけでなく、基本計画(行政経営計画)も市議会の議決事件にしていいただきたい。今年度の市議会正副議長、議会事務局職員にも同様の要望をしています。例えば、令和5年12月に基本構想を議決、令和6年3月に基本計画を議決等のスケジュールを検討していただきたい。議決の対象を拡大させるための手続きも必要かと思います。具体的な人口減少抑止策と人口減少社会適応策、SDGsとの関連性は基本計画で示されます。基本計画も市民が選挙で選んだ議員全員にしっかりチェックをしていただいた後に、「鈴鹿市総合計画2031」をスタートさせてほしいと願っています。	無	基本計画は、行政経営計画として、基本構想を具現化するための基本的な施策等を体系的に示す計画と位置付けています。 基本計画を議決対象とすることは、事前統制の意味でも意義あることですが、一方で行政運営の柔軟性や迅速性を拘束するなど、計画の硬直化が懸念されることから、議決の範囲を基本構想のみとしています。 また、基本計画に位置付けられた基本施策等を具現化するための予算やその成果である決算等を審議する過程の中で、市議会が施策の実現性や行政運営の実効性をチェックする機会があり、そこで、議会の統制機能が果たされる面がありますので、基本計画を議決対象としていません。 ただし、基本計画の策定に当たっても、市議会にも策定段階で適宜、情報提供し意見を聴きながら、基本構想の実現に寄与し得る計画となるよう取り組んでいきます。
2	全般	全体的にわかりにくい言葉が多い。注釈が多いと文章として理解されにくいと考えます。多くの市民が理解できるように言い回しを工夫して頂きたいです。	無	計画全体を通して、専門用語に注釈を付けるとともに、できるだけ分かりやすい表現となるよう心掛けて作成しています。 また、写真やイラストを付けるなど、見せ方にも工夫を凝らすとともに、計画策定後は、動画や概要版を作成するなど、できる限り分かりやすく基本構想の内容を伝えていきたいと考えています。
3	全般	全体的なこととしてですが、SDGsとの関連を記述する点は評価できるのですが、市の政策として。政策間の関連性も見えるようにするべきと考えます。 例として公共交通の課題ですが、ビジョン4の14ページで「地域のニーズに対応した地域公共交通の実現、」との表現で良好な都市づくりに関連付けられ、みんなの目標4-3となっていると推察しますが、この課題は、ビジョン2において2-3もしくは2-4とも関連していると考えられます。であれば、関連しているみんなの目標についてわかるように表記したほうが良いと考えます。 同様の考えで、基本施策整理段階で関連する基本施策があれば、それを表記するように検討されるべきと考えます。	無	より効率的・効果的に計画を推進するため、分野別に体系化し、ビジョンを整理をしています。また、各ビジョンは、7ページに記載のとおり、それぞれが関連し合うものであり、一丸となって推進していく必要があるものとしています。 各基本施策の関連性については、現在、前期基本計画素案の作成を進めていますので、御意見を参考にさせていただきます。
4	2	上段に「総合計画2023を策定し計画的な行政経営を行ってきました。また下段の方に「現状をしっかりと把握した上で、新しい将来像や目標・方向性を定め2031計画を策定します」と記載されている。2023の目標は達成する見通しはほとんどない現状だと思います。どのように現状認識をしているのでしょうか。PDCAの管理サイクルは回しているのでしょうか。私には全然回しているように見えない。	無	鈴鹿市総合計画2023は、計画期間中であることから、令和3年度までの成果指標の実績値を分析しています。また、毎年度、行政評価を行い、単位施策、実行計画の検証を行っています。 なお、外部評価として、総合計画2023の施策、単位施策をまとめた総合戦略について、鈴鹿市地方創生会議において、KPIの達成度の評価・検証を実施しています。
5	3	「2 策定の基本的な考え方」の部分で、2023は“人口20万人都市の維持を目標に”と記述されているのですが、2031についての考えが示されていないのは違和感があります。代表質問の答弁で「人口20万人都市として、更なる発展を目指す」とありましたが、それに準じた表現が記述されているべきではないでしょうか。	無	「鈴鹿市人口ビジョン(改定版)」(令和2年3月)において、本市の人口動向を分析し、将来の人口推計を明らかにしており、施策を企画立案する上での基礎資料としています。 人口ビジョンでは、2031年には約19万人程度になると推計されていますが、人口20万人を支える都市機能を有するまちとして、未来に持続可能なまちを展望し、具体的な人口減少対策を基本計画、実行計画で示すことで、人口の維持・拡大に向けた取組を展開していきたいと考えています。 そのため、3ページに、「策定の基本的な考え方」として、総合計画2023の取組を継承するとともに、持続的に発展していくために必要となる取組の方向性を記載した上で、「人口減少対策」と「DXの推進」を明確にした計画とするため、地方版総合戦略と統合し、一体的に人口減少対策に取り組んでいくことを示しています。また、この考え方を受けて、24ページに、「人口減少対策の方向性」として、人口減少を可能な限り抑止するとともに、人口の獲得や関係人口を増やす必要があるとし、人口減少及び人口構造の変化がもたらす課題に取り組んでいくことを示しています。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
6	3	「市民とビジョンを共有し、みんなで「協働」する計画」と関連して、以降同様の部分が多数あります。 鈴鹿市にとって、地縁組織としての自治会に事務委託費として補助を出し、要望の受付に関しても主となっている現状がある。その自治会が23行政区とつながる形で自治会長会そして連合会が形成され、エリアとしての自治を行ってきた経緯もあるはず。加入率は約8割で、自治会が崩壊しているといえる状況ではないと考えるが、総計素案の中での位置づけが見えない。 行政区と自治会長会のまとまり、小学校区がほぼ重なっている地域のまちづくり協議会は、協議会が設置される以前から緩やかに、基礎となる住民意識が形成されていると考えられるが、鈴鹿市はそのような地域をもって、現在の取り組みが機能していると思い込んではいないか。入り混じる地域や、逆に分断状態となっている地域が存在し、まだ安定しているとは言えない状況があることを忘れるべきではない。 家庭ごみの対応、要望などの立ち合い、広報配布、寄付依頼など事務委託をもって自治会は行政の下請け的な存在と考えてはいないか。それらを自治会に任せながら、まちづくり協議会をことさらに取り上げることは慎重に議論すべきである。 まちづくり協議会に自治会長の方や経験者の方々が関わっているのは、現計画2023の前期計画ですべての地域に協議会を設置することが掲げられたため、未設置地域での議論の際、自治会長が中心になった経緯があるからではないのか。 そして、行政区を解体するかのようにして、まちづくり協議会へ移行することは、これまで市として考えを明確にしていないのではないのか。それを行政側からなし崩し的に移行する形をとることは、果たして自治の観点から考えてどうなのかという議論もあるはずである。その点を、素案段階から留意するべきである。 ① 1段落部の文章内に“自治会”の記述がないのはどのような意図なのか。地域づくり協議会＝自治会と考えることは、現在の状況下では不適切と考えます。 ② 1段落目を受け2段落目において“地域総ぐるみ”との表現がありますが、市内の地域づくり協議会の熟度や、持続可能性をどう考えているのか、評価はどうなっているのでしょうか？	無	単位自治会は地域づくりの基礎となる団体ですが、地域づくり協議会は単位自治会のみではなく、地域住民、その地域に関係する人及び単位自治会を含めた、その地域で活動する団体等が構成員となり、加入脱退の概念がなく、単位自治会の範囲を越えて課題解決に取り組む誰もが平等に参加できる団体です。 地域づくり協議会は、協働のパートナーであり評価対象ではありませんが、今後の更なる協働の推進に向けて、各協議会の状況を踏まえながら、各協議会の活動が持続可能なものになるよう、支援を継続していきます。
7	3	※3のトータルマネジメントシステムは非常に大事なマネジメントです。確実な着実な実行を期待します。合わせて※4市民力、※5協働はともに重要なキーワードである。常にこの言葉を生かした実行を期待します。	無	トータルマネジメントシステムをより機能させるとともに、協働のまちづくりを進めていくことができる計画としたいと考えています。
8	3	『基本的考え方』3本柱について 1)人口減少とDXの推進を明確にした計画については ①先にも記載しましたが DX化は手段であって目的ではない。この手段を使う目的、目標を基本的な考え方にすべき。例えば ②時代変化に対応できる行政改革の推進 時代変化に敏速に対応できる効率的、効果的経営の推進を図り鈴鹿市を変革させる。この考え方によると a)時代変化、環境変化、日常の課題など常に最新の状況把握をする活動が生まれる。 b)その課題をどんな目標で解決するか、その目標値を設定し共有化する活動 c)この目標を達成する手段方策を皆の協働で考え協働で解決する行動。常に最善な方法を生む文化ができる d)その解決手段にDXが必要となる。 e)また協働という形で市民力と行政力で効果的に活動する。 f)民間人、企業経験者、企業に依頼、あるいは協働という手法の考え方、が柔軟に出てくる。 g)そんな体制を作り効果的に臨機応変に運営できる形にして成果を出していくことが求められる。持続可能なまちづくりに向けた計画 2)持続可能なまちづくりに向けた計画 ①鈴鹿市として何をSDGsで狙うのか重点取り組みを明確にすることが大事。鈴鹿市では何が重要でしょうか。自動車を中心とした工業関係。市民生活ですべきことなど個人が取組めることを明確にする。 ②日常意識できる、チェック出来る、効果が自覚できるような項目に絞って全住民が参加できる活動になるような項目を期待します。 3)市民とビジョンを共有しみんなで「協働」する計画 ①ここに記載してある内容は同感です。また具体化の中でこの考えで具体化して欲しい。2023の反省含めて考える必要がある。 ②協働について a)今の時代「協働」はすべての活動で必要な行動である。 b)協働推進指針を関係者は十分理解し行動しているだろうか。 c)市の組織、また組織文化に「協働」がない。縦割り組織のままである。横断的視点で動く部署(本来は部長は全庁的視点で考動)全庁取組の組織、又部門長の役割責任の見直し(協働を重点に置いた管理者)	無	1) 御意見のとおり、3ページにDXの推進をはじめ、時代の変化を捉えたまちづくりを進めるとともに、これまで培ってきた市民力をみんなで伸展させていくことが必要とし、19ページに、デジタル技術の活用により、業務の効率化や住民の利便性の向上、地域の課題解決につながる取組を推進していくことを記載した上で、24ページに、デジタル化を手段として変革を進めるDXを積極的に推進し、地域の課題解決・魅力を図るとしています。 2) 基本計画にSDGsとの関連性を示すとともに、「みんなの取組」として市民一人ひとりに期待される行動例を示します。 3)① ②a) 本市においては、鈴鹿市まちづくり基本条例に基づき、協働のまちづくりを推進するため、鈴鹿市協働推進指針を定め、市民と行政、市民相互など、まちづくりの多様な主体による取組による課題解決を推進してきました。今後も、少子高齢化や生活の多様化により現れる様々な課題について、行政や住民、NPO、学校、企業など様々な主体が協働して取り組むことで、市民一人ひとりが夢及び生きがいをもって安心して暮らせるなど、住みよいまちをつくることを目指していきます。 3)②b) 協働推進指針だけでなく、「協働」の必要性については、広く市民や庁内に対して周知を行ってきました。今後も「協働」の考え方が十分に浸透するよう周知啓発を引き続き実施します。 3)②c) 「協働」とは、3ページ下部の定義にもあるとおり、「役割と責任を分担して協力し合うこと」とされています。市の組織においても、それぞれの部局における役割と責任を明確にし、部局間での連携、協力を図り、行政も一丸となって、市民、地域づくり協議会、企業等の多様なまちづくりの主体との協働を目指します。
9	4	図で「基本構想－基本計画－実行計画」のピラミッド型の図が示されていますが、これらの中で、鈴鹿市行政としての地域政策の熟度はどうなっているのか、庁内で地域づくりの考えが整理共有されているのかがわかりません。行政が場当たりに「地域」を設定し考えているのでは、図左側の「多様なまちづくりの主体との協働」はうまくいかないと考えます。 1～3Pの中で、市としての、地域政策に対する責任の記述が必要ではないでしょうか。	無	地区市民センター所管区域、地域づくり協議会の区域、校区等成り立ちの異なる様々な区域が設定され、業務ごとにそれぞれの区域が使い分けられている現状と、それに伴う多様なまちづくりの主体との協働を進めるに当たり、区域の違いによる各主体の関係性構築及び事業実施においての参加への壁などの課題については認識しているところです。 なお、地域づくり協議会の区域については、前段の事情を踏まえた上で各地域の住民の皆様により決定されている区域であり、市が方針付けできるものではありません。 その上で協働のまちづくりの推進のため、諸課題の整理を進める必要はあると考えています。

No.	意見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
10	4	『計画の構成と期間』について 1)総合計画2023の実施内容を振り返り大きな反省点を対策した計画、管理にしてください。 2)基本構想、基本計画、実行計画欄に書かれている“達成度を測る指標”実行計画で”毎年度、社会情勢に応じて見直します。”と記載されていますがぜひPDCAを回せる管理方策をとってください。文学的表現からこの活動管理には工学的、デジタル的管理が必要だと思います。 3)この計画の立て方が市長の任期を考慮してとあるが少なくとも議会で承認をとった計画内容である。市長の任期を考慮しては省くべきだと思います。市長の業績ではあるがもっと重要なのは市民にとってである。ある意味”お役所的”と言われるところがこの表現から感じ取る。住民視線とうたいながら行政お役所視点になっている。	無	1) 本年度は、総合計画2023の最終年度であり、引き続き、取組の効果検証をしながら、改善につなげるとともに、基本計画、実行計画に反映していきます。 2) トータルマネジメントシステムにより、PDCAサイクルによる行政経営を進めます。管理方法についても改善をしながら、より効果的な運用を図ります。 3) 市民の代表である市長の任期を考慮し、市民ニーズに則した政策の方向性の変化に対応できる計画としたいと考えています。一方で、基本計画を4年間とする理由を記載すべきと考えるため、素案どおりとしています。
11	6	1段落「コロナ禍の経験を通して浮き彫りになった新たな課題」との部分について、この部分で“新たな課題”について、簡潔に記述するべきと考えます。	無	コロナ禍では、医療体制をはじめ、新しい生活様式に対応するための業務のデジタル化の遅れなど、各分野において様々な課題が浮き彫りになるとともに、人と人のつながりの重要性も再確認されました。これらを背景に、まちづくり全体の目標として、将来都市像を掲げています。コロナ禍の経験を生かしていくことの重要性を示すことが趣旨であるため、個別具体的な課題については記載をしないものとして整理しています。
12	6	将来都市像について「DXで未来を拓く」とありますが、現在の社会状況はDXの推進は標準ともいえ、あえて入れる意義は薄いと考えますがどうでしょうか。	無	現在の社会状況においては、DXを推進していくことは必然的な流れであると考えますが、将来都市像に「DX」を掲げることで、これからの時代に合ったまちづくりを進めていくことを示すとともに、着実にデジタルを手段とした取組を進め、トランスフォーメーション(変革)につなげていくことを明確にしています。
13	6	4段落「鈴鹿らしさ」を創造・活用』について「鈴鹿らしさ」の記述を読んでもありきたりのように感じるのですが、もう少し具体的にどのようなものを記述するべきと考えます。	無	「鈴鹿らしさ」の捉え方は、人それぞれ異なるところもあり、6ページの下段に記載のとおり、本市の魅力や特長を余すことなく生かした取組に加え、今後新たに鈴鹿ならではのものを創り上げていくことを含めて示しているため、具体的な記載はしていません。
14	6	将来都市像について 「ひとがつながり DXで未来を拓く # 最高に住みやすいまち鈴鹿」 どんなまちを目指すのか、一体何が最高なのか、これでは分かりません。 総合計画は、子どもからお年寄りまで、全ての市民が共有することが大切です。 「#みんなが住みやすいまち鈴鹿」など、誰もが分かるものにしたいです。 現計画(総合計画2023)の将来都市像は「みんなで創り 育み 成長し みんなに愛され選ばれるまち すずか」ですが、8年間で達成されたとは言えません。次期総合計画策定のための市民アンケート調査集計結果でも、明らかです。現計画の将来都市像を引き継ぎ、更なる高みを目指すべきです。	無	人口減少・少子高齢化が加速する中、今後、より高みを目指しまちづくりを進めていくことが必要であり、市民の皆様一人ひとりが「最高」と感じるができる、住みやすいまちを将来都市像としています。 分野別ビジョンに設定した「みんなの目標」が実現した状態が「最高に住みやすいまち」につながると考えています。 なお、ハッシュタグを付け、効果的にシティプロモーションを展開していくためにも、「最高に住みやすい」というこれまで使われていない言葉の組み合わせを選択しています。
15	6	将来都市像 1)DXは手段です。これをこの将来都市像の大きな命題に、手段にすることは危険。なんでもDX化しようという空気になる。 2)全体指標「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民の割合」が2023年現状値はどのように捕まえるのですか。アンケートの設問の住み続けたいですか 2020年87, 9%、2021年87, 6%、2022年84, 2%です。 2023年目標90%です。2020年から下がってきている。何故か。 ★2023計画で下がってきているのにどんな反省振り返りをして対策して90%に持って行けるか想定しての数字ですか。ゴールまでの行動イメージができていますか 3)最高に住みやすいまち鈴鹿の都市像は非常に抽象的でまた”これです”といったものがない。そこをある年代、環境の代表的な人をモデルにして継続的に評価する仕組みが考えられないでしょうか。対象者を明確にして住みやすさの評価が具体的でPDCA回してレベルを上げていく方策もあると思います。	無	1) 2ページ及び24ページに記載のとおり、デジタル化は手段として捉えています。これからの時代に合ったものの象徴としてDXを挙げるとともに、DXを掲げることで、デジタル化を着実に推進し、課題解決を図っていくことを示しています。なお、費用対効果等を検証しながら、DXを推進していきます。 2) 全体指標の現状値は、9月から10月にかけて市民アンケート調査により把握します。 実行計画に掲げる活動指標を達成することで、基本施策に掲げる成果指標の達成につなげ、基本計画の推進により、みんなの目標に設定した状態に近づけ、鈴鹿市に住み続けたいと感じていただける市民の割合の向上につなげていきたいと考えています。 3) 将来都市像の状態を分野別に整理したものがビジョンであり、その指標を「みんなの目標」としています。評価の仕組みについては、参考にさせていただきます。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
16	6	分野別ビジョン 1)この6つのビジョンは最高に住みやすい鈴鹿の必要ビジョンと位置付けていますが2023計画のビジョン活動成果との関係は説明できるでしょうか。表現は変えましたが項目的には同じです。また分野別で重点指向を表明する必要はないでしょうか。全部同じ重さではない。 2)住みたい鈴鹿市をつくる。特に何をどんなレベルにするのか明確にしてトップ目標を掲げその成果を出すためにはどんな分野、ビジョンをしないといけない。6ビジョンが同レベルではない。上位ビジョン目的を達成するための目的一手段のツリー型の考え方、あるいはピラミット型の考え方の方が市民には理解しやすいと思います。またアクションしやすい。変化対応、協働精神が生かせると思います。いずれにせよ2023計画の活動反省をきちんとしていますか。 3)各分野別ビジョンに示されている「みんなの目標(分野別指標)の満足度指数が2023年度指数(スタート時)だけで2027年2031年目標値記載がない。何故か、どうするかコメントがどこにもありません。このような提示の仕方ではパブリックコメントを聞くことができるのでしょうか。市民からすると何をどのようにどんな目標でやろうとしているかが大事。活動する時には5W1Hで提示してもらいたい。また実際の活動、業務でも5W1Hがきちんとできていて初めて結果を出すための行動になる。What,where,,When,who,why, how	無	1)2) 分野は、総合計画2023の「まちづくりの柱」を継承しながらも、国土強靱化などの方向性を受け、新たに安全・安心のまちづくりに寄与するものとして、道路・河川に関連するものをビジョン3に位置付けています。また、重点指向は、中長期的に固定すると時代・市民ニーズの変化に柔軟に対応することが難しいことなどから、位置付けをしていません。 総合計画2023では、行政評価を行うことで、改善につながるよう取り組んでいます。 3) 7ページに記載のとおり、「みんなの目標」は、多様なまちづくりの主体との協働で実現を図り、満足度の向上を図っていくものとしています。具体的な取組は、基本計画、実行計画で示します。
17	6	将来都市像について 「ひとがつながり DXで未来を拓く #最高に住みやすいまち鈴鹿」 どんなまちを目指すのか、理解出来ない。総合計画は、子どもからお年寄りまで全ての市民が共有する必要があるのに、これでは分からない。 現計画(総合計画2023)の将来都市像は「みんなで創り 育み 成長し みんなに愛され選ばれるまち すずか」だが、これまでの8年間で到底達成されたとは言えない。このことは、次期総合計画策定のための市民アンケート調査結果でも、明らかである。 現計画の将来都市像を引き継ぎ、さらに充実させるべきである。 全体指標について ここだけでなく、この基本構想素案では、全ての指標で、現状値が空欄となっている。これでは、全体指標だけでなく、分野別のみんなの目標を含め、指標そのものの内容が適切か、目標値や満足度指数が適切なのか判断出来ない。しっかりと検討し、再度提案すべきである。 全体指標を「鈴鹿市に住み続けたいと思う市民の割合」としているが、これでは全体指標としては、不十分である。市民アンケートの調査結果(P7)では、居住の理由として、最も多いのが、「生まれたところだから」の42.2%である。次に「結婚したため」29.4%、「親や家庭の都合で」16%が上位3位だ。 鈴鹿市が最高に住みやすいまちだからという訳ではないのは明らかである。市民アンケートの調査結果(P15)の分野別満足度評価では、11分野の内、プラス評価はわずか2分野である。これを2031年では、半数以上の6分野とするなどに変更するべきである。 市民アンケート調査結果(P13)の市政に対する満足度では、40項目の「満足」「まあ満足」を合わせた満足度は、27.7%が最も高く、7.5%が最も低くなっている。これでは、他市から移り住もうという気にはならない。 最高に住みやすいまちからは、ほど遠い。将来都市像をまずは、変更するべきである。	無	人口減少・少子高齢化が加速する中、今後、より高みを目指していくことが必要であり、市民の皆様一人ひとりが「最高」と感じることができる、住みやすいまちを将来都市像としています。 将来都市像が実現した状態を分野別に整理したものを分野別ビジョンとしており、各ビジョンに設定した「みんなの目標」が実現した状態が「最高に住みやすいまち」につながると考えています。 なお、ハッシュタグを付け、効果的にシティプロモーションを展開していくためにも、「最高に住みやすい」というこれまで使われていない言葉の組み合わせを選択しています。 各指標の現状値は、全体指標や「みんなの目標」が意見公募結果等により変更となる可能性があるため、市民アンケート調査を意見公募手続後に行うことにしました。 将来都市像の実現度を測るため指標として「住み続けたいと思う市民の割合」がもっとも適したものであると考えています。また、「みんなの目標」として各分野における満足度を測定することで、補完できると考えています。 基本構想は、令和6年度から8年間における、まちづくりの指針となるものであり、より高みを目指し、様々な行政課題を克服していくことで、将来都市像の実現を図っていきたいと考えています。
18	7	分野別ビジョンについて 現計画(総合計画2023)8年間の総括も書くべきである。この検証の結果を踏まえ、「みんなの目標」を設定すべきである。	無	総合計画2023は、本年度までの計画であり、最終的な総括は、令和6年度に予定をしています。そのため、毎年度の行政評価に加え、中間的な総括として、令和3年度までの実績値をもとに分析した結果を別途公表しています。 なお、「みんなの目標」は、基本構想素案の策定過程で、市民委員会などでも議論いただき、設定をしています。
19	8	「現状と課題」について、「課題」として、学力の高い層が高校進学時点から、津や四日市の高校に流出していることも記述するべきと考えます。高校は県のことと考えるだけではなく、主体的に市としても関わる意識が必要でしょう。	無	中学校卒業後の進路につきましては、一人ひとりが各高等学校等の特色や本人の意思、将来の展望をもとに望ましい進路選択がなされるよう努めていることから、御指摘いただいた点については、課題として記述する必要はないと考えます。 また、「学力の高い層」が津や四日市の高等学校等を選択する傾向があるという御指摘だとしますと、各都道府県が、県立高等学校等の教育を所管しているため、各市町が県立高等学校等の教育施策に関わることは困難であると考えます。
20	8	「現状と課題」の1段落目の中に「子育て力低下の懸念もあります。」とあるほうが良いように考えます。	無	御意見は、今後の子ども施策を展開していく上での参考にさせていただきます。
21	8	「教育・次世代育成」の2段落に「先進的に取り組んできた」との表現がありますが、なにをもってそのように認識しているのでしょうか。「これまでの」という表現が良いと思います。	無	「協働型」コミュニティ・スクールや日本語教育等、鈴鹿市が他市に先駆けて取組を進めてきています。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
22	8	【現状と課題】について：漠然とした一般的な課題しか述べていないと感じます。『学校規模適正化』や『通学区域の弾力化』は本市の大きな課題です。これについては、統合に反対する活動などもあり、7月には新聞報道され周知のことです。『この具体的で切実な課題』に言及していないのは、何か不自然で、まったくしっくりきませんがいかがなものでしょうか。「協働」という理念を掲げるならば、もう少し考慮すべきではないですか。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、御意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。
23	8	【現状と課題】 「全ての子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育の実現に向けたさらなる取組が求められています。」とありますが、「全ての子どもたちの可能性を最大限に引き出すために、『子どもは権利の主体である』ことを子ども自身や大人が学ぶ取組が必要です。」 教育環境の整備は必要ですが、こども基本法にも明記されているように「子どもは権利主体であること」を社会全体で意識化できる取組が必要です。子どもたちが自分が権利の主体だと学び、それを日常の中で実感することが、意欲や可能性を引き出すことにつながると考えます	無	御意見は、今後の子ども施策を展開していく上での参考にさせていただきます。
24	8	①「現状と課題」 人口流出による少子化が問題である。鈴鹿市を子育てしたい街として選択されていないことの証明である。近隣他市町が子ども政策を明確にしている中で、「途切れない支援(ファイルの存在)や「医療費無償化」などは10年前には進んだ施策であったとしても、現在は陳腐となっている。10年先を見越した施策を打ち出してもらいたい。 具体例としては、明石市と同じくシングル家庭の養育費用の建て替え取り立てなど、単身家庭の養育への不安を解消する施策や、大山市の児童館制度のように国籍を問わず、子どもを預かって学習も見てもらえる施設に費用を投じる。鈴鹿市の場合には広域性という地理的課題があるので、少なくとも子どもが自転車で集まれる程度の開所箇所数を見込まなければならない。学童保育はやっと鈴鹿全地域に設置された。学童保育と子ども食堂を連合して児童館の役割を持たせることなど、柔軟に運用を考えることができれば、現在の規模で十分な予算化ができる。NPOの質を高めて活用することは人的リソースの最短獲得方法であるが、それらを研修するシステムを構築することには市だけでは難しい多角的な視点が必要になる。現在鈴鹿子ども支援ネットワークは古参の子ども支援団体が主に参加しており、鈴鹿市の子ども支援関連の行政担当も一緒に会議をしている。これを活用し、教育研修システムと総合的な子ども支援政策にテコ入れしてもらうことも提案できる。 ②「日本語教育」について、生活言語から学習言語への発達を踏まえた支援が必要である。学校における3か月間の日本語教室で習得できない子どもが増えている。言語発達として特別支援と連携した日本語教育のニーズが高くなってきている。指導員の養成も重要である。 ③「不登校初期支援」について、安心して過ごせる学校と家庭以外の場所として受け皿が求められている。一方で、そこに帰着し、結局何も解決しないまま過ごす児童生徒の数が不登校減数に繋がらない理由と考えられる。チャート等によって一人一人の不登校の理由を見立てて、支援を進める時代になっている。家庭環境要因と本人の資質のアセスメントが必要。専門機関を活用願いたい。 子どもに関わる鈴鹿の地域的な特性として、広範囲による集中・散在の個性が大きい点が考えられ、①～③のすべての課題に通じる問題である。 鈴鹿市のすべての子どもが自分で行くことができる場所に、安全・安心・保育・教育のベースが整うことが最も重要な視点なのではないだろうか。	無	① 御意見は、今後の子ども施策を展開していく上での参考にさせていただきます。 ② これまでにも、日本語教育の様々な研修会を行ってきました。さらに市内一定水準の日本語指導が行えるよう、今年度から新たな日本語教育研修会も計画・実施しています。 また、本市では、小学校・中学校の9年間で途切れのない支援を行えるよう、日本語教育の取組を進めています。日本語の力が身に付いてきたことを外国人児童生徒と共に喜び合いながら、今後も日本語教育に取り組んでいきます。 ③ 社会的自立のために、安心して学べる居場所があることは、子どもたちにとって、大切なリソースです。また、御意見のとおり、子どもたち一人ひとりに応じた支援につなげていくために、必要に応じて専門機関等と連携し、アセスメントしていくことは大切であると考えています。
25	8	「協働」についての記述があります。そのことは今後大いに進めて欲しいと思います。外国人支援や、子育て支援の現場でNPOが活動していますが、これまで鈴鹿市と「協働」している実感は薄く、なかなか市と課題や、支援の共有が出来ているとは感じていません。県や、国との事業では連携、協働することが進んでいます。今後NPO法人など市民団体との協働が進化していくように、具体的な実効性のあるものに進めて欲しいと思います。	無	今後も、子どもの成長を支える様々な機関との協働を進めます。
26	8	本市においても、少子化は深刻な問題となっています。また、核家族化や地域の関わりの希薄化などが進み、子育てに対する不安や孤独を感じる子育て世代が増えています。	無	御意見は、基本計画において反映させていただきます。
27	8	ウェルビーイングの向上⇒誰もが心も身体も健康で幸福な社会づくりを目指しますに変更して下さい	無	「ウェルビーイング」という言葉は、令和5年6月16日に策定された国の教育振興基本計画で用いられており、今後の教育施策に関する基本的な方針のコンセプトとされています。 なお、欄外に注釈を設けています。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
28	8	現状と課題の部分で、子どもたちの教育環境においても、…中略、全ての子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育の実現に向けた更なる取組 が求められています。 と謳っているにもかかわらず、先日の中日新聞報道によると、天栄中学校区の将来像として、「4小1中統合 2段階 32年 一貫校に 市教委素案」の記事を拝見、愕然とした市民の1人です。 ●教育・次世代育成の部分で 子どもたちが、これまでとは大きく異なる超スマート社会(Society5.0※7)においても、豊かに学び、働き、暮らしていくために、主体的に社会を生き抜く力を身に付けられる教育環境を整えます。(令和5年度施政方針で末松市長も述べられた) → つまり、子どもたちが主体的に学び、社会を生き抜いていく力を身に付けられるよう、誰一人取り残さない教育環境を実現してまいります。と記載があるが、言ってること、やろうとしていることに整合性が全くないと強く感じました。 (私からの重要な提言) 鈴鹿市も亀山市の桜井市長のように複式教育の良さを認め、安易な統廃合はしない方針を打ち出してほしいです！ 桑名市や津市の小中一貫校を真似なくていいんです。鈴鹿市南部には南部なりの「分散型小中一貫校実現をめざして欲しいものです！」小学校は残しつつ(案:4年までは地元小通学・分校方式)、複式教育の良さを残しつつ、小中連携での小中一貫校を実現する。参考としては徳島モデルの「分散型小中一貫校」をぜひ視察、研究、南部地域に取り入れてほしいものです。 (参考) https://youtu.be/enznDWkUC-c(「複式学級について」) 以上 何卒、ご検討をよろしくお願いいたします。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、御意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。
29	8	市は、複式学級を選択することを考えていない点がおかしい。みんなの目標1-2: 子供が楽しく安全で安心して学べる環境が整っている。としているが、合川・天名・郡山・栄という広域な地域をひとくくりにしている考え方は、地域で安全に子どもを学ばせる環境にはならない。 ビジョンの「教育・次世代育成」の文中に「協働型」コミュニティスクールに力を入れるのであれば複式学級の方が実現できるのではないか？この文に書かれている内容と小学校の統廃合は、真逆のことを書いていると思う。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、御意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。
30	8	人口減少の対策として「子どもを産み、育てたいまち」として選ばれるために必要な施策はどのように考えているのか。	無	地域全体で子育てや子どもの育ちを支える仕組みづくりを推進し、子育て支援に関する多様なニーズに沿った事業を展開していきます。
31	8	子どもを育てるためには教員の質は重要な観点であるがどう考えているのか。	無	「鈴鹿の教育」を継承・進化させていくために、教職員それぞれの経験年数や職種に応じた研修を計画的に実施するとともに、各校における校内研修の充実を図ります。
32	8	総合計画と教育大綱の関係について説明してください。	無	総合計画と教育大綱はともに市長が策定をするため、内容の整合を図っています。教育大綱は、総合計画の中で謳われている教育に係る内容をより具体化したものとなっています。
33	8,9	ビジョンの「現状と課題」の最後に、子どもから大人まで、全ての人が、生涯にわたり、学び、豊かに暮らしていくための環境づくりを進めることが必要です。としている。みんなの目標1-1:安心して子どもを産み育てることができ、…。としているが、地域に学校が無いとこへ住もうと思う若い夫婦は、少ないと思う。	無	「子どもを産み、育てたいまち」として選ばれるために、地域全体で子育てや子どもの育ちを支える仕組みづくりを推進し、子育て支援に関する多様なニーズに沿った事業を展開していきます。 児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、ご意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考とさせていただきます。
34	8,9	24頁に、国のデジタル田園都市国家構想基本方針が引用され、重要な要素として、「地方に仕事をつくる」、「人の流れをつくる」、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「魅力的な地域をつくる」が述べられ、さらに「本市においても」と続けられているにもかかわらず、分野別ビジョン、特に、ビジョン1が、出産・育児、教育、文化、スポーツのみになってしまっている。人口減少対策の一丁目一番地は婚姻増であり、結婚・出産・子育ての三本柱のうち、最重要なのは結婚である。ビジョン1を「子どもが輝き 人と文化を育むまち」とするのではなく、「結婚・出産・育児の希望がかない、人と文化が輝くまち」とするほうが、人口減少対策を踏まえたものとなる。また、人口減少対策を踏まえるなら、ビジョン1-1に婚姻増に向けた取組を絶対に掲げ、育児等はビジョン1-2以降に掲げておかなければならない。鈴鹿市における、「コロナ禍の経験を通して浮き彫りになった新たな課題」とは、コロナ禍の前後において、市主催の自治体婚活が皆無であったこと、先進的な他市が次々実行する中で未実行であったこと、未実行であったがゆえに先進他市よりも自治体婚活の対象年齢を44歳もしくは49歳程度まで引き上げなければ形骸化してしまうこと、などが挙げられる。結婚について「のみ」は、PDCAサイクルがずっとDの未実行で停止してしまっている現実を直視されたい。全ては、人口減少対策が出産・育児限定であったがゆえのことであるから、ビジョン1は絶対に改善を為されたい。	無	御意見は、今後の人口減少対策として、子ども施策を展開していく上での参考にさせていただきます。 結婚は他の施策も含め複合的要因の帰結でもあることから、ビジョン1については素案のとおりとしています。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
35	9	「文化・スポーツ振興」について、文章で、読書活動や生涯学習活動の内容とスポーツの内容がつながった形ですが、「～心豊かに暮らすことができるように取り組みます。あわせて、スポーツに触れ親しむ機会を充実させることにより、～」としたほうが良いのではないのでしょうか。	無	趣旨は同様であると考えますので、素案どおりとします。
36	9	ビジョン1のみんなの目標について、1-1から1-3は「環境が整っている。」で締められているのですが、1-4は「実感できている。」となっています。施設のあり方なども含まれることを考えると、「誰もが楽しさを実感できる環境が整っている。」と揃えるほうが良いと考えます。	無	みんなの目標1-4は、環境が整っている状態ではなく、楽しさを実感できる状態を目標としていますので、素案どおりとします。
37	9	みんなの目標「1-3文化活動や読書、生涯学習に関わる環境が整っている」について、視覚障害やディスレクシアなどにより読むことが困難な方、その他の障がいにより視覚による表現の認識が困難な方でも、録音図書を利用することにより読書できます。その点を考慮し、「全ての人」あるいは「誰もが」を追加すべきです。これは、「2-4障がい者が安心して…」にも通じるものと考えます。録音図書が広く認知され、利用されることを望みます。	無	総合計画においては、基本構想の4ページに記載のとおり「基本構想」、「基本計画」、「実行計画」の3層構造としています。第1層の「基本構想」から第3層の「実行計画」に向けて、より具体的な記述となります。 「基本構想」におけるビジョン名称やみんなの目標は、基本的に全ての人を対象としたものであるため、「全ての人」や「誰もが」といった表現は使用していません。ただし、ビジョン2の健康福祉の分野などで、一部対象者を限定しているみんなの目標については、対象者の属性が分かるような表現をしています。 録音図書に関する御意見については、第2層の「基本計画」において外国人や障がい者など記述する予定です。
38	9	みんなの目標 1-2「子どもが楽しく安全で安心して学べる環境が整っている。」 →「子どもが安全で安心して楽しく学べる環境が整っている。」に修正	無	安全・安心を前提とした楽しさですが、子どもの視点から楽しさを強調した文に構成しています。
39	9	ビジョン1に雇用の創出・その人の生活環境にあった働き方の多様化などが必要ではないのでしょうか？	無	総合計画2031では、他のビジョンにおいて推進していきます。
40	10	「現状と課題」の2段落に“みんなが一丸となって”という表現がありますが、片方で、自粛警察といわれた同調圧力の課題も存在していたと考えますし、特例承認で行われたワクチン接種も課題があると考えられる方もいることを考えると、この表現は用いないほうが良いと考えます。	無	市をあげて新型コロナウイルス感染症対策の取組を進めてきたことを意図し、「みんなで一丸となって」との表現を用いており、素案のままの表現とします。
41	10	「現状と課題」の2段落に“医療や介護体制の充実、感染症対策のほか、”という表現がありますが、“感染症対策において医療や介護体制のあり方と充実の課題が見えました。”という書き方のほうが良いように思います。	有	御意見を踏まえ、次のとおり修正します。 「本市においても、みんなが一丸となって感染症対策の取組を進めましたが、その過程において、医療や介護の体制、交流機会の減少による孤独・孤立などの課題が浮き彫りになりました。」
42	10	「現状と課題」の2段落の最終2行について、「また、地域でのつながりの希薄化の進行や、孤独・孤立などの課題が浮き彫りになっています。」としてはどうでしょうか。	有	御意見を踏まえ、次のとおり修正します。 「本市においても、みんなが一丸となって感染症対策の取組を進めましたが、その過程において、医療や介護の体制、交流機会の減少による孤独・孤立などの課題が浮き彫りになりました。」
43	10	少子高齢化が更に「進展する」→「加速する」に修正	有	御意見を踏まえ、「少子高齢化が更に進展する」を「少子高齢化が加速する」に修正します。
44	10	現状と課題 現計画(総合計画2023)では、次のまちづくりの方向性に書かれている取組みが、十分に達成されなかった。この要因を現状と課題として、記述すべきである。	無	総合計画2023は、本年度までの計画であり、最終的な総括は、令和6年度に予定をしています。そのため、毎年度の行政評価に加え、中間的な総括として、令和3年度までの実績値をもとに分析した結果を別途公表しています。 なお、分野別ビジョンにおける「現状と課題」は、これまでの取組の結果を踏まえた上で、各分野における現状認識と課題を示しています。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
45	11	みんなの目標2-3と2-4について、前ページの「まちづくりの方向性」から読んで、この2つが目標として出てきている流れがわからないのではないのでしょうか。また、包括的な支援体制の構築と地域共生社会の実現の文脈や、政策的な内容から考えても、2つが特出しになる根拠がわかりません。どちらも主語を「誰もが」とすればよいと考えます。 厚生労働省のホームページでも「地域共生社会のポータルサイト (https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/)」として別立てで設置されていますし、素案においても「まちづくりの方向性」で記述されていることはその内容となっていますので、それに合わせた形で再構成すべきと考えます。 それに、このままの構成では、地域福祉の課題を政策的に体系化することが困難ではないかと危惧します。 例として、7040問題や8050問題にある高齢の親の支援に頼る中高年層への対応の課題はどこに入るのでしょうか、若年層も含めた引きこもりの課題はどうなるのでしょうか、中卒以上20代半ばを想定した世代での福祉的な視点からの就労支援はどうなっているのでしょうか。それらはどの「どのみんなの目標」とつながるのか、またどのビジョンとつながるのかがわかりません。 また、高齢者のフレイルは、現在の素案において2-2でしょうか？それとも2-3でしょうか？ 福祉領域は、身近な課題としての「実行計画」や「事務事業」を抽出して、そこから組み立てる考えが必要ではないのでしょうか。それを“地域共生社会”の視点から、現行素案でいうところの「みんなの目標」としてまとめるほうが適切と考えます。 あわせて、ポータルサイトに「地域共生社会は、福祉施策が担う「支え・支えられる関係が循環し、誰もが役割と生きがいを持つ地域社会の醸成」だけでなく、社会・経済活動の基盤としての地域での「人と資源が循環し、地域社会の持続的発展の実現」の視点も重要であり、地域での暮らしを構成する幅広い関係者による“参加と協働”が求められる取組といえます。」と記述されていますが、この部分は、鈴鹿市における地域づくり、まちづくり協議会の取組でも重要な視点であると考えますが、その部分は本当に現在の計画に取り入れられているのか、また反映されているのでしょうか。 ① ビジョンそのものについて、「誰もが 健やかに いきいきと暮らせるまち」と変更すべきです。 ※前記の考えを下地にしてですが、みんなの目標について再考します。 ② 2-3について「誰もが、自分らしく暮らし続けることができる環境が整っている。」、2-4について「誰もが、安心して生活できる環境が整っている。」として、基本計画部分でそれぞれに関連する「基本施策」を整理するほうがわかりやすいと考えます。	無	ビジョン名称やみんなの目標は、基本的に全ての人を対象としたものであるため、「全ての人が」や「誰もが」といった表現は使用していません。このため、「健やかに いきいきと暮らせるまち」のビジョン名称については、素案どおりとします。 御指摘の地域共生社会の取組では、「誰もが」という表現が多く使われておりますが、その中には、子どもや高齢者、障がい者といった多様な人々が含まれています。 このことから、みんなの目標2-3と2-4については、対象となる方の属性が分かるように表現しているため、素案どおりとします。 また、8050問題等は主にみんなの目標2-1で、高齢者の方のフレイル対策は主にみんなの目標2-3に基づく基本施策等で、その実現を目指していきます。 なお、地域共生社会の実現に当たっては、「まちづくりの方向性」に記載のとおり、市民の皆様や、地域づくり協議会をはじめとした多様な主体との協働のもとで、地域の福祉的課題に対応することが不可欠であると認識しています。このため、ビジョン6に掲げた市民力の向上(多様な主体の連携・協働による地域課題の解決のための取組)と連携し、取り組んでいくことになります。
46	12	「現状と課題」の1段落について、「地球温暖化が原因と考えられる」という部分は不要と考えます。その上で以下のように文章を構成することを意見します。 「近年、気候変動の影響により、台風や集中豪雨などの自然災害による被害が各地で頻発・激甚化しており、気候変動への適応が求められると同時に、南海トラフ地震の想定震源域にある本市においては、地震による甚大な被害も懸念され、市民の大規模自然災害に対する危機意識が高まっています。」	無	防災・減災の取組を説明する上では、必要な文言だと考えているため、御意見を参考にさせていただきます。
47	12	「現状と課題」の2段落の1行目「国では、」について「国では復興事前準備の考えを取り入れながら、」としてはどうでしょうか。	無	御意見を参考にさせていただきます。
48	12	「まちづくりの方向性」の1段落について「交通事故」が記述されているものの、それを受ける表現がないように思います。“地域防災力”ですべてを受けるといことでしょうか？	無	危機管理意識の「危機」の中に、交通事故を包含しているため、素案どおりとします。
49	12,13	鈴鹿市の最大にして最悪の課題は慢性渋滞であり、直近の10年前後ではずっと我慢し続ける作業、または、渋滞する時間をどうにか避けて移動する作業の連続であった。ビジョン3-4は、本市の交通量偏在を鑑みると、全てのビジョンと直結する。ゆえに、道路と河川を別項目としてはどうか。河川整備とは別問題で道路不足が鈴鹿市の課題である。鈴鹿亀山道路は、既に渋滞が予測されており、東西の幹線道路は、供用開始後でさえも新設が求められる惨状が確定している。鈴鹿亀山道路の供用開始後ではなく、今すぐに、中央道路、鈴鹿亀山道路に次ぐ第三の東西軸の事業化に向け着手されたい。もちろん、河川整備の関係もあり、鈴鹿市には橋梁が少なく、そのために迂回路が少ないという特徴もある。橋梁の新設や拡幅、さらに、堤防道路の拡幅または交通集中の変更も必須である。そもそも生活道路のほずの堤防道路が幹線道路に準ずる交通量であることから、中央道路との交差点が渋滞箇所・危険箇所となってしまっている現状を直視されたい。	無	市内の道路渋滞は非常に大きな課題であると強く認識しているところであり、その軽減、解消に向けて、市道整備並びに国・県が行う幹線道路事業の促進に向けて取り組んでいるところです。 また、気候変動がもたらす豪雨や大型台風による甚大な自然災害の脅威は年々増しており、河川事業につきましても喫緊の課題であることから、河川整備は計画的かつ着実に進めていく必要があります。 これらの課題解決に向けての事業推進につきましては、第2層の基本計画(基本施策)において、道路、河川ごとに具体的に引き上げ、推進していきます。
50	14	「現状と課題」の2段落と3段落について、以下のようにする方が内容は通りやすいと考えます。 「～その恵まれた自然環境の保全と共生を図る必要があります。さらに、生活に密接に関わる公共建築物、道路、河川、上下水道施設、公園などの公共施設等が適正に維持管理され、人口減少や超高齢社会に適応した持続可能な都市構造が求められています。そして本市への移住・定住を見据え～」	無	快適な都市環境を実現するためには、恵まれた自然環境の保全と、生活に密接に関わる公共施設等が、適正に維持管理されている必要があります。その上で、人口減少や超高齢社会に適応した持続可能な都市構造に向けての取組が必要であると考えますので、素案どおりとします。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
51	14	「脱炭素化の推進」において“地球温暖化対策への取組”という表現は“二酸化炭素排出抑制の取組”で良いのではないのでしょうか。	無	「脱炭素化の推進」において“二酸化炭素排出抑制の取組”という表現は、「再生可能エネルギーの導入、省エネルギー行動の推進」を説明するものであると認識しています。 一方、ここで表現する“地球温暖化対策への取組”とは、二酸化炭素排出抑制の取組以外にも、植林等で二酸化炭素を削減(吸収)していく取組も推進していくことを意図しているため、“地球温暖化対策への取組”の表現が相応しいと考えます。 なお、御意見に関連し、昨年度本市が表明した「鈴鹿市ゼロカーボンシティ宣言」の宣言文においても「地球温暖化対策については、私たち一人ひとりが脱炭素社会の実現に関心を深め、積極的な再生可能エネルギーの導入や省エネルギー行動等への取組が大切となります。」と明記し、“地球温暖化対策への取組”の表現を一貫して使用しているため、総合計画2031においても同様の表現での記述を考えています。
52	14	国の公共交通空白地区の判断基準にとらわれることなく、市民の生活ニーズに寄り添った地域公共交通の実現が、良好な都市環境づくりにつながると考えるが、その点はどうなっているのか。	無	ビジョン4「自然と調和し快適な都市環境を未来へつなぐまち」の実現に向けた、まちづくりの方向性の一つを「良好な都市環境づくり」と設定しました。 具体的には、市民が快適で安心して暮らせるまちづくりを目指すことであり、このことを踏まえると地域のニーズに対応した地域公共交通の実現に向けた取組が必要であると考えます。
53	14,15	公共下水道の計画を見直しているが、下水道整備地区の各世帯接続率は100％に近いのか。各戸の合併浄化槽への対応区域を増やしているが、ビジョン4-3のみんなの目標に反している。下水道接続率を必ず設定すること。上げていく市の努力姿勢がみえない。	無	汚水処理の方法には、公共下水道のほかに集落排水、コミュニティ・プラント、合併浄化槽等があり、どの処理方式においても一定の水質基準を満たした処理水を放流しています。そのため、合併浄化槽への対応区域を増やすことが、みんなの目標4-3に反するとは考えていません。 また、「下水道接続率」は、下水道を利用できる区域のみの指標になることから、基本構想と基本計画において、指標に設定することを想定していません。
54	15	市民アンケートでも満足度が最低であった、「地域公共交通の充実」が、みんなの目標に書いてないことが、おかしい。	無	基本構想では、将来都市像が実現した状態を分野別に整理したビジョン4「自然と調和し快適な都市環境を未来へつなぐまち」に向けた具体的な取組目標を4つ設定し、「みんなの目標4-3 都市環境が整い、快適で暮らしやすいまちづくりが進んでいる」については、まちづくりの方向性のうち、良好な都市環境づくりを踏まえて設定したものととなっています。 なお、良好な都市環境づくりに寄与する政策の一つが交通施策であり、地域のニーズに対応した地域公共交通を実現し、市民が快適で安心して暮らせるまちづくりを目指すことを明記しています。
55	15	みんなの目標4-3は、「市民の満足度をあげる公共交通の実現と充実」に変えるべきである。	無	基本構想では、将来都市像が実現した状態を分野別に整理したビジョン4「自然と調和し快適な都市環境を未来へつなぐまち」に向けた具体的な取組目標を4つ設定し、「みんなの目標4-3 都市環境が整い、快適で暮らしやすいまちづくりが進んでいる」については、まちづくりの方向性のうち、良好な都市環境づくりを踏まえて設定したものととなっています。 なお、良好な都市環境づくりに向けては、住環境・景観・土地利用・地域公共交通等の分野・観点から施策・事業を実施し、市民が快適で安心して暮らせるまちづくりを目指すことを明記しています。 そのため、公共交通(地域公共交通)の目指すべき状態やあるべき姿を、みんなの目標に設定するのではなく、良好な都市環境づくりに寄与する様々な分野と整合を図り、将来都市像の実現に向けた目標を設定しています。
56	16	「現状と課題」の2段落最終行について、「本市の産業でも企業誘致や起業促進など新たな対応が求められています。」としてはどうでしょうか。	無	「企業誘致」については、以前から行っており、「起業促進」は今後関係機関とも連携し、検討を行いますので、素案どおりとします。
57	16	「現状と課題」の3段落最終行について、「鈴鹿市から若い世代の流出抑制と、他の地域からの流入を促進して、にぎわいと交流を生み出していくことが重要です。」としてはどうでしょうか。	無	「若い世代の流出抑制と、他地域からの流入の促進」については、雇用確保の課題として、基本施策の中で記載する予定です。
58	16	方向性の中で、成長産業と記述しているが、鈴鹿市として何を成長産業と位置付けているか明確に記述すべきではないか。	無	総合計画においては、広く「成長産業」と記載し、詳細は別に策定する「鈴鹿市企業誘致推進戦略」に記載します。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
59	16	方向性の中で、景気変動の影響を比較的受けにくい産業の創出としているが、鈴鹿市はものづくりの市と標榜している中で、この表記は矛盾している。	無	本市では、これまでどおり、製造業や運輸業の立地に取り組むとともに、今後は安定した成長が期待できる産業分野の企業誘致も目指していくという考えです。
60	16	労働人口減少対策は総合計画2031ではどのようにとらえているのか。また、企業城下町としての自覚はどうか。	無	労働人口減少対策については、基本計画や実行計画の中で具体的な取組を検討することとしています。また、本市には大手自動車メーカーとその関連企業が立地されており、製造業の基幹工場であるとの認識に変わりありません。
61	16	大企業の誘致についてはどこに表してあるのか。また市内企業の育成はどうか。	無	企業誘致については、大企業のみを対象に行うものではなく、中小の優良企業も対象に行っています。また、市内企業については、定期的な企業訪問や、ものづくり産業支援センターによる支援等も行っています。
62	17	みんなの目標5-1で企業誘致を進めるとしている、産業別の誘致数をこの下の目標に明確に設定すること。(物流倉庫がたくさんできて働く場所が増えないから)	無	産業別の誘致数については、明確に表すことはできませんが、総誘致数については、基本施策などに記載する予定です。 なお、これまで本市の企業誘致は製造業や物流業を中心に行ってきましたが、今後は成長産業の誘致も進めていきます。
63	17	みんなの目標5-3「鈴鹿市産の農水産物に魅力がある。」について、「農水産物」より「農林水産物」の方が一般的な表現であると思います。	有	御意見のとおり、より分かりやすい表現にするため、また、林産物についても魅力を向上させる産物であると認識していることから、「農林水産物」と記述するよう修正します。
64	18	「現状と課題」の5段落について、「行政課題」を「社会変化に伴う行政課題」としてはどうでしょうか。	無	あらゆる行政課題への対応としているため、素案どおりとします。
65	18	「現状と課題」の5段落について、「安定的な財政基盤を確立し、質の高いサービス」を「安定的な財政基盤を確立し、社会的包摂に資する政策や施策、および 質の高いサービス」としてはどうでしょうか。	無	社会的包摂は、社会的排除の解消(誰も取り残さない)を目的とした考え方であるため、質の高いサービスに包括していると考えますので、素案どおりとします。
66	18	「共生社会の実現」について、地域共生社会とのつながりがわかりにくいと感じます。「平和への取組、人権の尊重、多文化共生、男女共同参画など、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていくまちづくりを進めます。」ということかと考えます。	無	様々な人々が分け隔てなく暮らせる社会として、人権を尊重し、国籍や性別、年代に関わりなく暮らせる社会の実現に向けたまちづくりを進めていきます。
67	18	「市民力の向上」について、“地域”を自治会とまちづくり協議会をひとまとめにしているようですが、それでよいのでしょうか。	無	自治会は、地域自治の最小単位かつ最も身近な共助の組織であるのに対し、地域づくり協議会は一定の地域における様々な地域づくりの組織が連携協力して地域づくりに取り組むネットワーク団体であり、相互に連携することにより各地域の特色に応じた共助の取組が活性化するものと考えています。
68	18	「市民力の向上」について、“協働の仕組みの強化”という表現がありますが、強化ではなく“協働の仕組みの醸成”というニュアンスのほうが適当と考えます。	無	協働の意識の醸成とともに、仕組みの強化も必要と考えています。
69	18	「行政力の向上」の1段落について、「また、政策立案から実施そして評価と携わることができる人事異動や、人事評価制度の見直しなどにも取り組みます。」とあるほうが良いと考えます。	無	18ページにまちづくりの方向性として、行政力の向上について示しています。具体的な基本施策や事務事業に関しては、基本計画や実行計画の中で検討することとしています。このため、今後、基本計画や実行計画の策定段階において、参考にさせていただきます。
70	18	鈴鹿市の職員が市民から信頼されているという実感が無い。市長のリーダーシップによって、共生社会の実現、市民力の向上、行政力の向上のための取組をもっと強化してほしい。	無	18ページにまちづくりの方向性として、共生社会の実現、市民力の向上、行政力の向上について示しています。具体的な基本施策や事務事業に関しては、基本計画や実行計画の中で検討することとしています。このため、今後、基本計画や実行計画の策定段階において、参考にさせていただきます。
71	18	民生委員の委嘱に各地区苦勞しており、自治会長が兼務するケースも増えている。市民力の向上と記述しているが、実効が伴っていない。	無	協働のまちづくりの中で、自助・共助を担う地域づくりにおいては、地域住民の皆様にも様々な役割を担っていただいています。 しかしながら、個が尊重される社会背景から、地域住民としての役割分担への理解を得ることが困難となっており、活動者の負担の増加も懸念されることから、今後も市民の皆様に対し、地域づくりの必要性を引き続き周知していきます。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
72	18	現状と課題 現計画(総合計画2023)の期間内では、地域づくり協議会の設立によって「市民力」は大きく向上した。 その一方「行政力」の向上は出来ていない。未だに「縦割り行政の改革について」さえ、手つかずの状態である。この事が最も大きな課題であると明記すべきである。 「行政は、地域活動に必要な多様な主体と連携し、を支援すると共にともに行政課題に柔軟に対応出来る組織体制の下を構築し、…………責務があります」と変更する。	無	御意見を参考にさせていただきます。 市は、行政力の向上に加え、行政を含む、地域活動に必要な多様な主体同士の連携を推進する役割を担う必要があると考えていることから、「地域活動に必要な多様な主体との連携を支援するとともに」という表現にしています。
73	18	●行政力の向上 行政力の向上については、市民力に比べ、全く進まなかった。 市民アンケート調査結果(P13)でも、下記のとおりである。 「行政①:職員力と組織力の強化」は、満足1.5%、まあ満足6.2% 「行政②:行政経営力の更なる強化」は、満足2.1%、まあ満足9.9% 「行政③:財源の確保と計画的な財政運営」は、満足1.5%、まあ満足6.2% 「行政④:適正な事務執行」は、満足1.5%、まあ満足7.4% と行政②以外は、10%未満となっており、状況は深刻である。これを改革するための、明確な方向性を明記すべきである。	無	18ページにまちづくりの方向性として、行政力の向上について示しています。具体的な基本施策や事務事業に関しては、基本計画や実行計画の中で検討することとしています。このため、今後、基本計画や実行計画の策定段階において、参考にさせていただきます。
74	18,19	市民から信頼される職員を育成する方向性に研修等しか記述されていない。地域市民センターとの活発な人材交流や、市内民間企業との人材交流など、人事の流動化も記述すべきではないか。	無	具体的な基本施策や事務事業に関しては、基本計画や実行計画の中で検討することとしています。このため、今後、基本計画や実行計画の策定段階において、参考にさせていただきます。
75	18,19	まちづくり協議会など、人口が多い地区も少ない地区も均等配分であるが、6-3の目標にもあるように、成果を重視した行政経営が必要である。	無	一括交付金の配分については、一定額をすべての地域に均等に配分した上で、地域性を考慮するため人口及び高齢化率をもとにした加算額を加えた額を、各地域への交付額としています。 しかし、地域づくり協議会においては、人口や高齢化率等だけでは計れない、様々な課題解決に取り組んでいただいていることから、将来においては活動量や成果等を指標とした交付額算定も視野に入れて、調査検討を進めていきます。
76	18,19	職員の動きに積極性が表れていないのではないか。	無	今後、基本計画や実行計画の策定段階において、参考にさせていただきます。
77	18,19	行政内部の横のつながり強化・情報共有はどこに表れているのか。	無	7ページに、各分野における取組は、それぞれが関連し合うものであり、一丸となって推進する必要があると記載しています。
78	18,19	協働について ① 今の時代「協働」はすべての活動で必要な行動である。 ② 協働推進指針を関係者は十分理解し行動しているだろうか。 ③ 市の組織、また組織文化に「協働」がない。縦割り組織のままである。 横断的視点で動く部署(本来は部長は全庁的視点で考動)全庁取組の組織、又部門長の役割責任の見直し(協働を重点に置いた管理者)	無	① 本市においては、鈴鹿市まちづくり基本条例に基づき、協働のまちづくりを推進するため、鈴鹿市協働推進指針を定め、市民と行政、市民相互など、まちづくりの多様な主体による取組による課題解決を推進してきました。今後も、少子高齢化や生活の多様化により現れる様々な課題について、行政や住民、NPO、学校、企業など様々な主体が協働して取り組むことで、市民一人ひとりが夢及び生きがいをもって安心して暮らせるなど、住みよいまちをつくることを目指します。 ② 協働推進指針だけでなく、「協働」の必要性については、広く市民や庁内に対して周知を行ってきました。今後も引き続き、「協働」の考え方が十分に浸透するよう周知啓発を引き続き実施します。 ③ 「協働」とは、3ページ下部の定義にもあるとおり、「役割と責任を分担して協力し合うこと」とされています。市の組織においても、それぞれの部局における役割と責任を明確にし、部局間での連携、協力を図り、行政も一丸となって、市民、地域づくり協議会、企業等の多様なまちづくりの主体との協働を目指します。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
79	7,18,19	全分野を検討することが時間的にできませんので一番大事な活動力を出さないといけないビジョン6みんなで支える 自分らしく生きるまち についてコメントします。 1)ビジョン6が他ビジョンの推進を支える市全体の自治力の向上を目指すために非常に重要な活動であることは当然だと思います。それを理解しやすくするにはP7の右の図の中心に記載する方がいい。全体進める上でのベース活動です。 2)またビジョン6の表現はもっと明確に「市民力×行政力」「協働」をビジョン言葉にした方がいろんな場面で(団体、地域でも)説得、説明しやすい、行動チェックしやすい。 3)計画2023の行動、成果が相当問題であることは行政は自覚しているか疑問です。思うような改善変化成果が出ていない。その原因にこのビジョン6ができていないことが主因だと思います。2031計画する上で市民、行政できちんと分析反省して2031の目標方向とその為の活動どうするかを再度検討する必要がある。 4)誰もが自分らしく暮らしていくためには…多様性を認め合う意識を醸成することが求められています。とありますがビジョンで自分らしく生きることを住みやすい街づくりで重要なことでしょうか。現在自分らしく生きていないという意見が相当あるのでしょうか。どんなことを問題にしているのか。ビジョンの重要度で必要なことでしょうか。過ごしやすいまちづくりではもっと大事なことがあると思います。 5)P18左後段に述べている…行政課題に対して柔軟に対応できる組織体制づくり…市民提供する責務があります。 問題はここまで本当に自覚しているのであれば2023計画の行動、また成果を猛省したときどんなことが必要か、そこを市民に提示すべきでしょう。 6)市民力向上の項に述べている「行政は、多様な主体どうしの連携・協働を促進するとともに、地域課題の解決に向けた協働のしくみの強化を図ります。とありますが行政が協働のために地域指導をしたのでしょうか。出来ていない。庁内の協働もしていない。組織の壁でできないと公言している。そこがなぜかを猛省して対策してもらいたい。 7)行政力の向上 この件については能書きでなく実行する体制、行動を提示してもらいたい。現在職員に聞くとシステム、制度はあるが全然気にしていない、やっていないという。この行政文化になっている原因を追究し対策・行動することを強く望む。 8)トータルマネジメントをどのような体制で実行していくかできていますか。2031計画に着手する昨年からの考えが必要だと思っていたと思います。すぐできり所から改善活動、またトータルマネジメントの行動に少しでもしましたか。個人でもできるところがある。この行政文化を徹底して変えないと2031計画の成果が達成できない。税金の大きな無駄使いです。 9)ビジョン6の「みんなの目標」満足度指数について具体的イメージできていますか。 この4項目見て感じるのは、鈴鹿市の現状の問題認識と変えねばならないゴールイメージが具体的に持たれているのでしょうか。作成した方に聞いてみたい。文学的表現では個人認識が変わり行動に差が出る。そのような進め方でいいのでしょうか。28ある地域づくり協議会、庁内の各部門に目的目標とそのレベルが伝わり各部門、地域が自分の役割責任を自覚して目標を立て行動計画し自走するように育つのでしょうか。 10)このビジョン6を担当する部門、団体、地域、関わる人は想定できていて、その人たちが理解できるようになっているのでしょうか。また活動、行動してくれる人たちまで想定しながら、目標の在り方、行動の仕方等を想定して表現しているのでしょうか。トップビジョン、目標を実行してくれる人に理解してもらえるようなものでないといけない。基本理念の段階ですが、担当部門の部課長レベルまではこの書類を見てわかるようにしないとけない。 11)このみんなの目標、達成度指数で各部門は具体化に進めるのでしょうか。 12)説明でシビックプライドなる言葉を使っていますがこの表現でないといけないのでしょうか、この言葉があるがために読みとる、理解する思考が止まってしまいます。言いたいのは、この文面を読む人、その人のレベルを考えてこの文は作っているのでしょうか。理解してもらって初めて書類を作成した価値がある。理解できない書類は成果は0である。価値ある仕事していない。	有	1) ビジョン6が他のビジョンの推進を支えるものとしており、それを図示しています。 2) ビジョン名称を「みんなで支える」とし、市民力の向上と行政力の向上を図り、オール鈴鹿で取り組んでいくことを示しています。 3) 行政評価により毎年度達成度を把握し、その結果を改善につなげる取組を進めています。より効果的な行政評価を行えるよう、トータルマネジメントシステムの改善を図っていきます。 4) 「自分らしく生きる」とは、総合計画2023における「めざすべき都市の状態」の「23 誰もが互いの違いを認め合い、個性と能力を発揮していること」から継続するビジョンにあたります。障がいの有無や、国籍、性別、年代に係わらず、全ての人が、支える側と支えられる側に別れることなく自分の個性と能力を発揮することができる社会(＝共生社会)を実現するためには、自分らしく生きることが大前提と考えます。 5) 総合計画2023は、本年度までの計画であり、最終的な総括は、令和6年度に予定をしています。そのため、毎年度の行政評価に加え、中間的な総括として、令和3年度までの実績値をもとに分析した結果を別途公表しています。 6) 地域づくり協議会については、協働における行政と対等なパートナーであり、住民の皆様の主体性に基づく団体であることから、市から指導を行うことはできませんが、今後も協働の考え方について周知を行っていきます。また、庁内においても、引き続き協働の意識醸成を図るとともに、地域と行政だけでなく、多様な主体同士の協働を推進するための仕組みについて検討していきます。 7) 御意見を参考に取り組んでいきます。 8) トータルマネジメントシステムの改善に取り組み、より効果的な運用を図ります。 9) 「みんなの目標」を達成するために、市民一人ひとりに期待される取組等を基本計画でより明確にしたいと考えています。 10) 11) 各ビジョンの内容は、関連する所属が関わり、全庁的に共有しながら作成しています。まちづくりの方向性に基づき、行政として責任を持って進める基本施策を明確にしていきます。 12) シビックプライドは、総合計画2023では、「鈴鹿市に対する愛着と誇りのこと。」として注釈に記載していましたが、より概念的な言葉であり、自ら地域に関わっていくとする気持ちを含めた言葉として、本文中への説明書きではなく、注釈により対応しましたが、本文内に内容が分かるように修正します。
80	19	「行政力の向上」の2段落最終行について、「政策のビルドアンドスクラップを適正に行いながら、健全で効率的な行政経営を推進します。」としてはどうでしょうか。	無	トータルマネジメントシステムの効果的な運用により、事務事業のビルドアンドスクラップを適正に行っていきたいと考えています。
81	19	みんなの目標6-1:多様性を認めあう意識が醸成され、自分らしく暮らしている。の「自分らしく暮らす」という目標が良くわからない。市民にわかりやすい目標が必要ではないか。人権を尊重する市民が多く暮らしているとか、具体的な記述を望む。	無	「自分らしく生きる」とは、総合計画2023における「めざすべき都市の状態」の「23 誰もが互いの違いを認め合い、個性と能力を発揮していること」から継続するビジョンにあたります。障がいの有無や、国籍、性別、年代に係わらず、全ての人が、支える側と支えられる側に別れることなく自分の個性と能力を発揮することができる社会(＝共生社会)を実現するためには、自分らしく生きることが大前提と考えます。具体的な取組や方向性については、各基本施策で明らかにしていきます。
82	19	デジタル技術の活用と記述しているが、デジタル技術の向上で地域課題の解決につながるのか？書かない行政手続きでは、有効かもしれないが、地域課題の解決に繋がると思えない。ここへの記述は大いに疑問である。	無	地域コミュニティを維持していくためにもデジタルが有効な手段として考えられます。行政としては、デジタル格差をなくす取組などのほか、教育や福祉など各分野におけるDXを推進することで、課題解決を図る取組を進めます。
83	19	市役所の業務効率化(DX活用)はどこに表現されているのか。	無	19ページに、デジタル技術の技術の活用により、業務の効率化や住民の利便性の向上、地域課題の解決につながる取組を推進していくことを記載しています。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
84	19	「トータルマネジメントシステムの効果的に運用する」としているが、上記の市民アンケートの結果を見ても、トータルマネジメントシステムが鈴鹿市にあるのかどうか不明である。 鈴鹿市のトータルマネジメントシステムとは何か、今後の方向性を示すべきである。 「シビックプライド」以降は、注14を活かし、「鈴鹿市に対する愛着と誇りを持ち、誰もが我が事とし、自らがまちづくりに関わっていこうとする機運の醸成を図る」と変更するべきである。	有	トータルマネジメントシステムについては、3ページ及び22ページにおいて内容を説明しています。行政評価の結果や実行計画などの具体的な進行管理の状況は、鈴鹿市ホームページ等で随時公表しています。 19ページ右側下から3行目を次のとおり修正します。 「、情報発信をしていくことで、地域に対する愛着・誇りを持ち、自らがまちづくりに関わっていこうとする気持ち（シビックプライド）の醸成を図るとともに、市民に信頼されるまちづくりを進めます。」
85	20	1段落について、「維持管理や更新費用の負担が課題として」の部分は、「既存のインフラ施設を含めた公共施設をすべて更新することはできないという課題が浮き彫りになっています。」とするほうが、状況をつかんでいるように考えます。	無	「鈴鹿市公共施設等総合管理計画」の趣旨に基づき、記載しているため、素案どおりとします。
86	20	2段落について、「カーボンニュートラル社会の実現」だけではなく、「カーボンニュートラル社会の実現と気候変動の影響への適応」とするほうが良いと考えます。	無	2段落に、「また、気候変動の影響により、全国的に自然災害が頻発・激甚化する中、防災・減災のまちづくりを進める」としており、記載が重複するため、素案どおりとします。
87	21	「災害に強い都市空間」について、「大規模自然災害に備えた、」の部分について、「大規模自然災害に備え復興事前準備の考えも取り入れながら、」としてはどうでしょうか。	無	御意見を参考にさせていただきます。
88	22	「評価の仕組み」について、4年ごとの市民アンケート調査委の実施に触れられていますが、無作為抽出の市民による“市民評価委員会”の設置に取り組んではどうかと考えます。	無	御意見を外部評価会議の運営などの参考にさせていただきます。
89	その他	読むことが億劫になりがちな高齢者や、日本語に不慣れな方に対しては、市報を音声データとして提供できるようにしてはどうでしょうか。 現在、鈴鹿市では視覚障害者への市報提供をボランティア団体・音訳グループ鈴の音が行っていますが、県内他市町ではホームページで市報内容を聞くことができます。本市でも検討すべきではないでしょうか。 これは、「誰一人取り残さない」施策であり、「2-3 高齢者が自分らしく…」 「6-4 行政に関する情報の入手や…」につながるものと考えます。	無	御意見を参考にさせていただきます。 基本構想の内容を多くの方に共有できるよう取り組んでいきます。
90	その他	産後里帰りハウスのご提案～子育て世代に移住してもらおう～ 私には子どもが3人いる。鈴鹿市で生まれ育った私は、今も鈴鹿に住み、出産もした。 お産を振り返ってみると、近くの実家へ里帰りできなければそれぞれの産後を“正常”に乗り切れなかったと思う。安心や基本的な生活（食事や睡眠）が保証されたことで、産後うつや育児放棄を免れた。それでもぎりぎりだったと思う。そこで、様々な理由で里帰りできない母子を対象に以下のことを提案する。 提案：産後里帰りハウスの開設 ホテルのようなリゾート、サービスというイメージではなく、実家のような場所。市の空き家、古民家などを活用。スタッフは専門職の他に地域のおばあちゃんや先輩母とすることで、女性活躍にもつながる。 子どもが大きくなってもいつでも気軽に戻って来られるような場所になれば、2、3年先輩の話を聞ける場にもなりえる。ゆくゆくは緊急児の短時間預かり（登録不要）や学童の併設もできるのでは？地域みんなでのちを守り、育くむ。産後ケアホテル、産後ケアハウスではなく、里帰りハウス。 目的 第一目的は産後の里帰りが叶わない母子の身の回りのケアや相談者となることで一定期間、安心を保証する。その結果、鈴鹿市がより子育てしやすい環境となる。妊娠出産子育て、定住する人を増やす。雇用の面では女性活躍の場となり、空き家を生かす取り組みにもなる。都市部でなされている産後ケアホテルとは差別化することで鈴鹿市が全国初の施設をつくる！鈴鹿市の魅力として発信することで未知なるつながりや相乗効果が期待できる。 内容 専門スタッフの他に、地域のおばあちゃん、先輩母たちが勤務、ボランティアとして従事し、子育て世代を支える。サービス提供というイメージよりも寄り添う、そっと肩を抱いて辛いね、大丈夫だよと母の心もケアし、育児を支えていく。サービスを提供する側受ける側というのではなく、つながりを大切に、一緒に育てよう、町ぐるみで育てようという感覚。とはいえ、各地域の産後ケアホテルやケアハウスのサービス内容をリサーチ、視察した上で鈴鹿市独自の形を作っていくと良いのではないかと。おばあちゃんの知恵袋みたいなこと、伝承、継承を大切に。しかし、スタッフは現代のスタンダードやエビデンスを元にした知識を得る研修を受けるなど、昔と今の子育てのギャップを埋める作業は大切。毎月の広報すずかでも人口減少が伺える。人口が増えること、市民力の向上、協働のまちづくりなど、基本構想の各所に対応できるのではないかと思います。	無	ビジョン1において、妊娠前から大人になるまでの成長過程における「途切れない支援」などに取り組むとともに、健やかに成長できるまちづくりを進めることとしています。 御提案の事業については、今後の取組の参考にさせていただきます。
91	その他	SDGsに掲げられた[3]. すべての人に健康と福祉を実現するには、すべての人が健康であるには、各人が生活のリズムを整えるべきだと思います。	無	御意見を参考にさせていただきます。 25ページに、SDGsに掲げられた17のゴールを実現するためには、市民一人ひとりの継続した取組が重要としており、SDGsの達成に向けて、市民一人ひとりで取り組んでいただける内容を基本計画で示したいと考えています。 また、ビジョン2では、市民一人ひとりが心身の健康などに留意し、健康づくりに取り組める環境を整えることとしています。

No.	意見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
92	その他	アンケートの分析は状態説明コメントであり、未達成原因がどこにあるか、どんな活動(行動)をした結果未達になっているかの分析がどこにもない。 あるべき姿➡その目標値(測れるもので常につかむことができ進捗がわかる指標) ➡その目標値に対して現在どんな数字か➡なぜそのような状態か、真の原因追及が(なぜなぜの追及) ➡その対策をこれからどうするか、目標修正をせざるを得ない状況か、CAPDCAの管理サイクルが回っているようには見えない。職員に聞いても認識無し	無	総合計画2023は、本年度までの計画であり、最終的な総括は、令和6年度に予定をしています。そのため、毎年度の行政評価に加え、中間的な総括として、令和3年度までの実績値をもとに分析した結果を別途公表しています。
93	その他	総合計画の実績評価と分析が無くて2031計画するのは非常に問題である。時代環境が大きく変化していることは認識するがこの総合計画目標達成の為の活動(組織、管理体制、行政全体の目標達成意識などなど)の反省を全庁的に、全部門が、また個人別にした上で2031の取り組み方を大きく変えないといけない。	無	総合計画2023は、本年度までの計画であり、最終的な総括は、令和6年度に予定をしています。そのため、毎年度の行政評価に加え、中間的な総括として、令和3年度までの実績値をもとに分析した結果を別途公表しています。
94	その他	総合計画2023の実績反省なしに2031を計画すること自体に大きな疑問があり、基本構想の素案項目ごとに意見いうことができない。パブリックコメントを求めるための資料がないと思います。	無	総合計画2023は、本年度までの計画であり、最終的な総括は、令和6年度に予定をしています。そのため、毎年度の行政評価に加え、中間的な総括として、令和3年度までの実績値をもとに分析した結果を別途公表しています。
95	その他	総合計画をたて実行し実績を出し市民から鈴鹿市は変わった。住みよくなったと評価が出るように取り組むには大きな改革活動の柱が必要です。 ① 目標に向かった挑戦行動する、挑戦的行動をするのは行政職員一人一人、そして達成する活動の仕方を変えないといけない。 ② 市役所の行政改革が全庁活動で必要です。トップ方針として公言し市民力も入れる。協働して変える活動が必要。人事評価制度の変革も必要でしょう。 ③人事評価制度の生きた活用が必要 市役所職員と話していると個人的には優秀な考えを持っている人材が多い。しかし彼ら、彼女たちは一所懸命工夫をした業務提案をしても取り上げてもらえない、また挑戦的に目標を立て行動しても、しなくても人事査定は同じ。給料反映はない。結局仕事に燃えてもしょうがない気持ちを私にぶつける人もいる。折角の優秀人材を活性化していない。業務成果はその人たちの行動で生まれる。上司一人が優秀だけでなく優秀な部下を育成し活用することが重要。現在もこのような人事制度あると聞いていますが現実的に運用されていない。民間会社では人材育成、個人の業務成果を如何に上げるかが重要テーマであり業績につながる。 ④行政改革の中には働き方改革につながる業務のムダどり改革が必要である。私の直感では40%以上の合理化ができる。改革は、仕組む、ツール、マインドのトライアングル改革で達成する。業務のムダどり、質の向上、業務スピード向上などの成果目標がある。”その手段にDXも1手段である。 ⑤DXを使うことを目標にしているがその前に業務改革をしてそれをDX化して効果を出すことが重要。なんでもDX化しないようにしないといけない。	無	① 市で定める「鈴鹿市人材育成基本方針」のめざす職員像の一つに「挑戦者であり続ける人材」を掲げています。新しい課題や困難な課題に果敢にチャレンジし、常に問題意識を持ち、柔軟な発想や創意工夫を凝らすことで、合理的に改善していくことのできる積極的な人材の育成を目指しています。 ② 本市の人事評価制度につきましては、人材の育成・コミュニケーションによる組織の活性化・組織風土の変革を目的として、すべての職員を対象に導入しています。現在、評価結果の処遇への反映として、勤勉手当に反映を行っておりますが、今後も更なる処遇への反映を検討し、職員のモチベーションの向上に努めます。 ③ 本市の人事評価制度におきましては、職員の業績、能力、職務への取組姿勢を公正、適正に把握し、人材育成、業務意欲の向上及び適切な業務マネジメントを図ることとしています。 また、評価の活用につきましては、処遇において勤勉手当への反映を行っています。 今後も業績、能力や意欲を適正に評価し、それらの積極的な処遇面への反映により、職員のモチベーションの向上につながる重要なツールとして、効果的な活用にあ努めます。 ④ 御意見を参考にさせていただきます。 ⑤ 費用対効果等を検証した上で、デジタル化を進めます。
96	その他	これからの世代(20代～)の話をもっと聞いてほしい！「バカみたいな事を言ってる」と思わずに聞いてほしい！もっと鈴鹿にお金が入るには、どうしたら良いか若者に聞いてください！ 「市がやりたいこと」特にお金のことなどでハッキリ教えてほしい！ 市にお金が、どれだけないから無理！と言われるのではなく、市民に対し「どうしたら良い？」と聞いてくれたら、また市への感じも違う。市民に対し本当のことを言ってください！ 少子化を止めたいので、何かするにも、やっぱりお金だと思う。 ハンガリーの少子化対策、面白いので一度見てほしい！ 明石市のように鈴鹿市でも子育て世代を応援してください。	無	総合計画の策定に当たり、学生との意見交換会や、15歳から29歳までの方を対象としたワークショップを開催いたしました。引き続き、若者の皆様の声を市政に反映していく取組を進めていきます。 また、子ども施策に関する御意見は、今後の子ども施策を展開していく上での参考にさせていただきます。
97	その他	WHOでは、一つの学校の適正定員は、約100人としている。小学校ならば1学年16人程度である。これに照らすと、2校程度の合併が検討できる課題であり、例えば、スポーツガーデン近くに新学校を造ると、みんなの目標1-4にも貢献すると考える。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、御意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。
98	その他	鈴鹿には、子どもを安心して遊ばせておける施設が無い。市民プールも無くしている。地域に児童館を造ってほしい。	無	御意見は、今後の子ども施策を展開していく上での参考にさせていただきます。
99	その他	公民館が有効に使われているのか疑問である。一部の関係者しか利用していないのではないのか。たまに使いたいときでも、予約でいっぱい使えない。	無	公民館は、社会教育法により「一定区域内の住民のために、实际生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として設置している施設であり、主にサークル活動等で活用してもらっています。 また、近年では地域部屋の設置により、地域の課題解決のための拠点施設としても活用してもらっていることも多いですが、もっと多くの住民が利用しやすい施設にできるよう努めます。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
100	その他	大学生の増加についてどう考えているのか。	無	市内に私立大学が2校あり、学官連携による事業を推進しています。全国的に大学進学率は上昇しているものの、少子化が加速していますので、若者の人口動向を注視し、必要となる対策を講じていきたいと考えています。
101	その他	鈴鹿市出身の歌手のコンサートを実施してほしい。もっと鈴鹿市観光大使をつくれないか。そのような数値目標をおいてほしい。仲間由紀恵なんか難しいかなあ。	無	文化芸術においては、歌手によるコンサートだけでなく、劇や楽器演奏等イベントを実施しています。観光大使については、鈴鹿市出身に限定すると、浪曲や津軽三味線、和太鼓奏者が鈴鹿と・き・め・きカルチャー大使として各種イベントで活躍しています。 また、鈴鹿市観光大使に関しては、本市にゆかりのある方をシティセールス特命大使として任命しています。 数値目標については、基本構想の4ページに記載のとおり、3層構造の第3層「実行計画」でイベントの開催回数や観客動員数等を設定する予定です。
102	その他	免許証返納を前にしている世代であるが、交通手段が無くて困っている。公共交通空白地域ではないが、近鉄駅までは歩いて20分以上かかる。バス停は近くにありません。早急にデマンド乗り合いタクシーを導入してほしい。	無	基本構想では、将来都市像や将来都市像が実現した状態を分野別に整理したビジョンを定め、ビジョンごとに目標を設定するとともに、まちづくりの方向性を示しています。 具体的な施策や事業については、基本計画や実行計画の中で検討しますので、今後の策定作業を進める中で、参考にさせていただきます。
103	その他	免許返納した者だが、返納者へのメリットが何もない。免許を返納しなければ良かったと悔いている。	無	免許返納者に対する各種制度については、「運転免許証自主返納サポートみえ」を御確認願います。
104	その他	病院に通院するには車が無ければ不便なので、免許返納ができない。ただし、高齢なので事故を起こすことが心配である。 病院が遠く、車に乗れない人は、タクシーしか移動手段がない。	無	免許返納者に対する各種制度については、「運転免許証自主返納サポートみえ」を御確認願います。
105	その他	買い物(スーパー)場所が遠い。また、近くに病院も無い。	無	食料品アクセス問題や交通不便地域への対策については、社会的な課題として認識しています。ビジョン2に掲げる福祉施策や、ビジョン4における地域公共交通施策、ビジョン5の商業振興、ビジョン6の市民力の取組など、様々な視点から課題解決に取り組んでいきます。
106	その他	市原市のように1000億円の税収入を増価させる考え方はどこにあるのか。	無	16ページ「ビジョン5」において、経営資源の確保について記載し、18ページ「ビジョン6」において、新たな財源の確保について記載しています。
107	その他	企業誘致には必要不可欠の農地転用はなぜ十分にできていないのか。	無	良好な営農条件を備えている農地(おおむね10ヘクタール以上の規模の一団の農地の区域内にある農地など)は、農地法に基づく転用許可基準により農地転用が難しいためです。
108	その他	ボランティアの担い手がいない	無	ボランティアは、有償無償問わず、その活動目的等に賛同した市民が自発的に行うものであると認識しています。ボランティアによって支えられている公共の福祉があることを認識の上、必要に応じて対策を講じていきます。
109	その他	若い人が市民活動のできる環境整備を行う必要がある	無	若者の活動による負担を軽減するなど、持続可能な活動を促すことにより、参加しやすい環境整備を行う必要があると考えています。
110	その他	「こうなりました」との行政の説明には大変不満を覚えるが丁寧な行政についてはどこに表されているのか。	無	19ページに、行政経営に当たって、市民参加を図るとともに情報発信し、市民に信頼されるまちづくりを進めることを記載しています。
111	その他	鈴鹿市教育委員会より学校再編計画が出されました。合川、天名、郡山、栄と広範囲の統合計画ですが、私はこれに反対です。また2032年4月開校と非現実的な話であります。 無理な統合により、学校が無くなった地域は過疎化が進行します。学校インフラ弱者の切り捨てです。鈴鹿市は自然豊かな住みやすい街を目指すとしていつ、長閑なエリアに住む事が困難に街にしようとしています。学校が地域から無くなれば、多分 自分は子供達次世代を考えて鈴鹿を出るでしょう。親が亡くなった時点で先祖代々受け継いだ土地(膨大な山林、農地)は財産放棄します。 鈴鹿市の美しい山々は、市民の誰かが所有して維持管理し固定資産税を払っている事を忘れないで下さい。本当に自分達には無駄な労力とお金です。 天名地区は既に工業地域としてポテンシャルがあります。合川地区も中勢バイパスが近く306号線も通り、リニア亀山駅が下庄となれば、鈴鹿市としても重要なエリアになると想定されます。農地の開発を妨げになっている法改正が必要ですが、人口減少によるある程度の小学校再編は必要かもしれません。しかし地域が壊れる様な無理な統合は絶対に中止を希望します。 せめて天名、合川の統合程度にし、小さな木造平屋の校舎を県営スポーツガーデンに隣接させて体育館とプールは既存施設を使用するのはどうでしょうか？コストを抑えつつ、市外からも魅力的な学校になると思います。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、ご意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。

No.	意 見		修正の有無	回答
	ページ	内 容		
112	その他	小鈴鹿市総合計画に小学校の再編計画が記載されていません。小学校区分は、地域と密接な関係にあります。小学校の統廃合は、単にPTAの「一本化」に留まらず、学校運営協議会、まちづくり協議会、老人会、地区市民センターの統廃合にも繋がります。又、地域での夏まつり、文化祭、町民運動会も統廃合に追い込まれます。学校再編は、少子化による財政的な節約が必要という理由だけで進めるべきではありません。OECD加盟国中、教育予算のGDP比は、ギリから2番目です。小学校の統廃合に伴う地域への影響を考える必要があります。 更に、最も優先度が高いのは、統廃合が子どもたちの教育に及ぼす影響です。小学校低学年の児童には10人いれば、10通りの寄り添った教育が必要です。手間の係る教育をもっともっと充実させることが必要です。小さなクラス、小さな学校でしか目が届きません。WHOでは、初等教育の学校規模を100人以下、1クラス20人を推奨しています。統廃合は世界の流れに逆行しています。少子化の理由だけで十把一絡げで教育予算を削り、短絡的に統廃合を進めるのは間違っています。 又、統廃合は、小中一貫校を最終目標の形としていますが、ひと昔前までは、カリキュラムの前倒しで、進学受験に有利ともてはやされた事もありました。しかし、今や、小中一貫校のあり方が問われています。多くの地域では、一体型の小中一貫校でなく、小中連携型となる分散型の小中一貫校の流れにあります。少子化に伴う財政的、地域的、教育的な議論がもっと必要です。鈴鹿市総合計画に、小学校再編計画がきっちり記載されて当然です。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、ご意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。
113	その他	「魅力的な地域をつくる」ためにも学校は残すべきと考えます。まず地域に子供の笑い声が溢れている事が魅力的な…には必要不可欠であると思います。少ない生徒数でも運動会の等のイベントを練習する声、又毎日の通学する子供たちの笑い声や挨拶を畑仕事をする高齢のおじいちゃん、おばあちゃん、学校の近くに住む地域の人に届いている現況が良いのではと思います。 学校を統廃合してしまうと、直接子供に関わる人以外は子供の姿を見る事すら無くなってしまうのではと危惧しています。 まず順番として児童対象者が増加するための対策を実施し、それでも叶わない場合に苦肉の策として学校の統廃合という手段になるのではないのでしょうか。 今学校が無くなるかもというこの現状は、ここに家を建てて住もうとする子育て世代に迷いを与えこの地に住む事を躊躇させていると思います。人口増加どころか過疎化を進めてしまっています。地域には子供たちの存在が必要不可欠であります。 合川小学校のすぐそばにある合川保育所が新しくなりました。にもかかわらず、小学校が無くなるという…本末転倒とすら感じます。間違いなく合川保育所を活用する人も減少するでしょう。 本当に計画的に税金を使っていますか？私には計画性を感じられません。 私は合川小学校の存続を希望します。統廃合に反対します。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、御意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。
114	その他	鈴鹿市総合計画に、学校再編の内容がないと思うのですがどこに記載されているのでしょうか。 私は現在天名小学校に子どもを通わせる母です。私も子どもも、周りの親御さんやその子どもたちも、小学校を統廃合することは全く望んでいません。 今ある教育環境を地域環境を壊すことはやめてください。 お願いします。	無	児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化は、様々な場面で児童生徒への影響が懸念されており、より良い教育環境の提供に向けて、対応していかなければならない課題と認識しています。 基本構想は、本市が目指す全体的なまちづくりの基本的な方向性等を示しており、御意見の内容については、基本計画や実行計画のほか、個別の計画(学校再編計画)において、参考にさせていただきます。